

## 第5回定時代議員総会の開催

今年も6/22(土)に第5回定時代議員総会が開催され、QAN理事会の今期の取り組みを報告させて頂きました。昨年、理事の大半が入れ替わった新生QAN理事会は、従来のQANの役割を引き継ぐ一方で、QANの付加価値を上げる新たな取り組みについて議論を重ねてきました。その中で最も大きな2つの取り組みは会員データベースであるQlothの全面改修と大同窓会の開催です。QlothのUIと情報量を向上させる事はQBS修了生を繋ぐQANの役割を最大限に発揮する事に大きく貢献すると考えております。大同窓会の開催と合わせて詳細は近日公開致しますので乞うご期待ください！



また今年の基調講演には株式会社ヌーラボの橋本社長にご登壇頂き、エフェクチュエーションと福岡のスタートアップをテーマにQBS OB/OGの増本衛さん(10期)ジンホンジェさん(18期)権藤菜津姫さん(20期)とのパネルディスカッションは大いに盛り上がりしました。ご協力頂きました皆様、心から感謝致します。

これからもQAN理事会は最高のアラムナイネットワークの継続発展のために取り組んで参りますので皆様の変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。  
QAN代表理事 西井健雄(15期生)

## QANアワード2024優秀賞受賞に寄せて

QBSの入学当時は大阪在住で製薬メーカーに勤務していました。入学後、福岡へUターン、異業種である家業への入社、社長就任など目まぐるしく生活が変化していきました。そして、今回のQANアワードで修了後3年間の自身の取組を振り返る良い機会となりました。

私は修了直後の4月より社長に就任したため、在学中の2年間は事業承継の準備期間でした。また、村藤ゼミでは自社の成長戦略をテーマにPJ論文を執筆し、それが今でも経営指針となっています。それでも日々、想定しない様々な問題に直面し、問題解決を迫られます。製造上の技術的な問題もあれば、社員の意識改革が必要なケースもあり、経営は総合格闘技だということをまさに実感しています。理系出身の私がQBSで仲間とディスカッションしながら学び得た知識や思考は財産となり、新しいことに挑戦していく仲間にはいつも刺激や勇気をもらっています。



QANアワードでの発表テーマは、「この世のどこにもないボルトをつくる」。創業105年目の会社ですが、日本の製造業の課題でもある中小企業の技術伝承に立ち向かいながら、特殊ボルトで業界のニッチトップを目指します。今回、優秀賞を受賞できたことは本当にうれしく、自信にもなりました。まだ道半ばではありますが、QBSでの学びや繋がりを活かしながら、ものづくりを通じて社会に貢献していきます。

株式会社中野ボルト工場 代表取締役  
中野 慎一(17期)



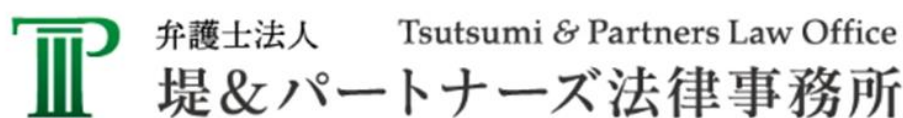
# QAN パートナーのご紹介

新しくQAN webパートナーシッププログラムにご協力下さった会員のご紹介



会長自ら宣伝して恐縮ですがQAN発展のため協力させていただきます。  
みんなで盛り上げて行きましょう！  
(15期生:西井健雄)

QAN webパートナーシッププログラム 継続パートナーの皆様



健全な企業経営を総合的にサポートする  
さんすいパートナーズ  
税理士法人



Web パートナーシップのお申込みは随時承っております。詳しくは  
QAN事務局(qan@econ.kushu-u.ac.jp)までご連絡下さい。



## 教員紹介(安田聡子教授)

2022年4月からQBSで『産業と技術』と『プロジェクト演習』を担当しております。私の専門領域はイノベーション論です。人材が移動することで知識が移転されたり、あるいは新しいアイデアが生まれてイノベーションの契機となったりする現象を研究しています。

私が初めて教壇に立った約20年前、学生にとってイノベーションとは「どこか遠い世界の話」だったようです。しかし現在では、非常に多くの学生が関心を寄せてくれています。そうした学生がどんどん増えていくことを「メッチャ嬉しい！」と、単純に喜んでいます。

ただ最近はイノベーションという経済現象が――良い意味でも悪い意味でも――過大評価されているようで心配です。「わが社の目標はイノベーションだ!」、「イノベーションで生活に安心を」、「イノベーションで暮らしを豊かに」、「イノベーションは仕事を奪う」、「イノベーションは格差を生む」等々、烈々たる言葉がイノベーションを彩ることに当惑しています。



安田 聡子 教授  
担当: 産業と技術

イノベーションとは「経済効果を生む革新」のことです。「何か新しいことを起こし、その結果が売上や株価、賃金、GDPといった経済指標に反映される」現象にしか過ぎません。

対照的に「会社の目標」、「生活の安心」、「暮らしの豊かさ」は、私たちの社会全体に関わる大きなテーマです。これらを「経済指標で計測できる事項」に矮小化してしまうのは、本質を見失うことだと危惧しています。

もちろん、企業が成長し続けるためにはイノベーションは不可欠です。でも同時に、「人間が生きていく社会」の分析にどこまで適用して良いのか、私はそのバランスを見つけるために日々試行錯誤しています。みなさんも私と一緒に悩みませんか?リカレント受講、いつでも歓迎です(笑)。

## 修了生リレー紹介

春、雪解けとともに埋もれていた葡萄の樹を起こしてワイヤーに縛ります。その数5千本超。新芽が出てくるやいなや芽欠きを行い、その数を大幅に減らします。

夏、どんどん伸びる新梢を誘引して垣根をつくります。暑いなか地獄の1ヵ月。伸び続ける枝を何度も摘芯して、光合成した養分を実に送ります。

実りの秋、白葡萄(シャルドネ、ケルナー)を収穫してはひたすらプレス。黒葡萄(ピノ・ノワール)を収穫しては手除梗して1ヵ月ほど醸します。香り、味、温度、発酵速度(糖度の変化)などのきめ細やかな管理を行いながら、野生酵母で発酵を終わらせます。

冬、雪が降り積もるなか、翌年の樹形や樹勢を想像しながら剪定。雪で樹が埋まる前に勝負を付ける必要があります。油断するとあっという間に積雪量が70cm以上になりジ・エンド。

年明け、熟成していた前年のワインを瓶詰め、ラベルを貼って出荷します。

12期の喜久です。こんな1年を過ごしています。銀行員から農家になりました。

フランスでは葡萄栽培から醸造まで行う人をヴィニキュロンとも言います。2024年は8.6トンの葡萄を収穫し、2026年の春には7千本超のワインを出荷できそうです。桃栗3年柿8年、ワイン葡萄は4~6年。北海道に移住して6年、やっと、岩場に足が付きかけた感じでしょうか。北海道余市町のYoka Winery(ヨカワイナリー)は、毎年、9月末から10月中旬頃まで収穫ボランティアを募集しています。旅行ついでに収穫体験はいかがでしょう。

それでは、起業前から相談に乗っていただいている坂本剛さんにバトンを繋ぎます。

Yoka Winery 株式会社  
喜久雅史(12期)





# 拡大平野ゼミの開催



QAN拡大ゼミ担当の神谷です。第11回となる拡大ゼミを9月28日開催しました。今回はハイブリッド方式で実施し、平野先生に「明治の企業家から学ぶ不確実社会における経営～女性企業家：広岡浅子から学ぶ～」というテーマでご登壇いただきました。対面16名、オンライン17名、懇親会15名、2次会7名と多くの方々に参加され、ハイブリッド方式のメリットを活かすことができました。講義は平野先生の広岡浅子愛を感じる熱くて素晴らしい内容で、明治を代表する女性企業家から多くの学びを得られるものでした。参加者からの声も好評で大盛会となりました。

ご多忙の中、拡大ゼミ開催にご尽力いただいた平野先生や関係者の皆様には心より御礼申し上げます。また、今回多くの方々からご寄付をいただきましたこと、この場を借りまして御礼申し上げます。先生方やQAN会員の皆様に支えられ、QANの活動はなりたっています。今後ともご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

QAN副会長 神谷 誠(18期)

## 2024年度理事会メンバーのご紹介

2024年6月の総会において、新しく1名の理事が着任しました。また、今年度はQAN顧問として小城先生にご着任いただきました。2024年度はこのメンバーで理事会を運営してまいります。引き続き会員の皆様、ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。 QAN理事会一同



## QANの活動へのご支援をお願いします

QANは、皆さまからのご支援とご寄附で成り立っています。組織を安定的に維持するための「事務局の運営」や「総会・講演会」「QANアワード」「修了生データベースの維持管理」「拡大ゼミ」などの持続的な活動のためには、会員の皆さまからのご支援を必要としています。頂戴したご寄附は、弊会活動にかかる経費や事務局の基盤強化の為に使用させていただきます。QANへのご寄附は下記URLより可能です。＊銀行振込・カード決済がご利用いただけます。

<https://congrant.com/project/qandonation/5905>

